



氏名	小谷 歩未
所属	商学部 商学科
学年	4年
留学先	スウィンバーン工科大学
留学期間	2025/5/26~2025/11/26

## 留学レポート Study Abroad Report

オーストラリアのメルボルンにある、スウィンバーン工科大学に半年間留学していました。私は交換留学や大学の短期プログラムで渡航したわけではなく、自身で留学プログラムを計画し認定留学で渡航しました。せっかくなので、私の留学レポートでは「認定留学ってどんな感じなの？」ということを中心に紹介しようと思います。

### 【準備について】

はじめに行ったのは場所決めです。私の場合は、英語で大学の講義を受けたかったこと、治安への不安、多国籍な場所への希望などから、メルボルンにしました。この時点で大学のプログラムでは難しいことがわかったので、自身で留学エージェントを探しました。エージェント利用の際は、そのエージェントを本当に信頼できるのか否か、しっかり検討することが大切だと思います。渡航前はエージェントの方々に大変もお世話になりましたし、渡航後も頼れる方が現地にいるというのは大きかったです。また同時並行で、行きたい大学とその大学に入るために必要な語学のスコア（IELTSやTOEFLなど）を調べました。私は大学のホームページ、またエージェントの方のサイトで確認しました。

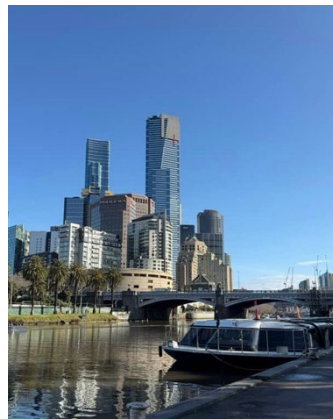
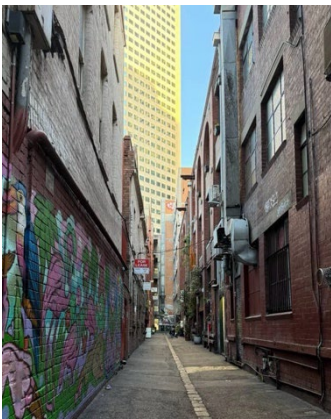
スコアをクリアした後は、授業の単位数と科目を決め、エージェントの方と出願しました。オーストラリアは1学期で3科目取るか4科目取るかを選ぶことができ、科目は大学のサイトより見ることができました。その後、大学からオファーレターを受け取り支払いを済ませ、無事にCoEという受け入れ可能の証明書を貰えれば、入学手続きは完了です。私は1学期3科目を選びましたが、いきなり現地で大学に入ることが不安だったため、留学期間を1ヶ月半前倒しして、大学に併設している入学準備用の語学コースに5週間入りました。

個人的に1番大変だったのはこの後の学生ビザの申請、住居探しと認定留学・奨学金の申請です。学生ビザはエージェントの手助けで無事申請することができたのですが、住居は自分で探さなければなりません。私は最初の語学コースの期間は同じエージェントにホームステイの斡旋を申し込み、学期間は大学の寮に直接申し込みをしました。大学内寮は人気のため外れることもあるらしく、この期間は

かなり緊張していました。さらに認定留学は申請期間外だったため、大学の国際教育課を尋ねたりもしました。このあたりの手続きは日程が重なっていたこともあり、かなりてんやわんやしていましたが、周りに助けてもらい何とか完了できました。そして航空券と保険の手配をして、必須の留学準備は終了しました。保険は大阪公立大学の国際教育課の方から紹介いただいたところと契約しました。

準備を通して感じたのは、大学のサイトは情報の宝庫ということです。例えば語学スコアの条件、開講されている科目などは全てスウィンバーンのウェブサイトを確認できました。さらに大学内寮や大学近くの学生寮、ホームステイについてもスウィンバーンのサイトで紹介されていたため、オーストラリアで必要な情報は基本的に全て手に入れることができました。大阪公立大学に申請が必要だったことも、学生 Navi の情報にしたがえば不安はなかったため、何か困ったことがあれば、大学のサイトを取りあえず見てみることを強くおすすめします！

また「どうしてもどうにもならない！」ということがあれば、諦める前に人に頼ってみてください。私も現地大学の方、エージェントの方、国際教育課の方にはとにかくお世話になりました。メールも数え切れないほど送りましたが、本当に親切にしてもらいました。冗談じゃなく、皆さんに助けてもらったおかげで、無事に留学を完遂することができました。人に助けを求める勇気を持つこともとても重要なポイントだと思います。



## 【大学について】

前述の通り、私は5週間の語学コースと、1学期間の学部聴講に参加していました。語学コースでは大学のレポート・エッセイの書き方や、議論の練習などをしました。クラスメイトはほとんどがアジア圏からの留学生で、私と同じような1学期だけの留学の子もいれば、卒業を目指している子もいました。

学期間は、Study Abroad Program という学部聴講プログラムを利用していました。その名の通り、多くの現地大学生・留学生たちに混じって、大学の講義を受けます。私は会計科目を2科目、金融科目を1科目受けました。全ての科目で配分50%の期末テストがあり、なかなかハードな構成となっていました。1番大変だった課題はグループレポートです。会計科目2つともかなり大きいグループレポートがあったのですが、片方は締切5分前に皆であたふたしながら提出したり、片方はグループメンバーが急遽入院することになったりと、色々ともう目が回りました。わけあって期末テストの日程とレポートの提出期限が重なった時には、文字通り泣きながら課題をしたこともありました笑。その代わり無事に終わった時の達成感と安堵は凄まじかったですし、今となってはいい思い出です。

予習をしっかりしているのに分からないことも山のようにありましたが、同じクラスを取っている現地の友達に沢山助けてもらいました。またここでも、わからなければとりあえず先生に聞いてみる！の精神がかなり役立ちました。メルボルンの中心部は本当に多文化的な都市で、現地の方も英語の訛りや色々な境遇の生徒たちに慣れっこだったので、とにかく伝えようと頑張るメンタルが大切でした。もちろん英語力を鍛えることもとても重要ですが、こういった精神力も自分を助けてくれると思います。



## 【生活について】

最初の1ヶ月半をホームステイ、残りの4ヶ月半を大学内寮で過ごしました。ホームステイ先・大学共に、メルボルン市内ではなく電車で15分~20分ほど離れたところにあつたので、人混みが苦手な私にとっては、適度な都会で過ごしやすかったです。

ホームステイ先はコロンビア出身のホストマザー、オーストラリアで生まれ育つたホストシスター、おじいちゃんワンコの一家でした。ファミリーとは仲良く過ごすことができ、シスターの誕生日会に招いてもらったり、逆に私の誕生日を祝ってもらったりと、寮に移ってから親しくしていました。寮でも本気でホームステイに戻ろうか考えたことがあるくらい安心できる場所で、ありがたかったです。

寮はキャンパス内にある建物で、私は4人部屋に入りました。バスルームは2人、リビングとキッチンが4人、洗濯ルームは寮全体で共有でした。ルームメイトについてはキッチンの使い方や掃除について思い悩んだこともありましたが、反対にバスルームを共有していたメンバーとはとても親しくなり、2人で一緒に出かけたりもしました。さらに寮生向けのイベントが常であり、生活の支援を受けることができたり、他の寮生たちとも交流できたりしました。課題やテスト期間前には皆で集まり、朝6時まで勉強したこともありました。もちろん学校単位や留学生単位のイベントも沢山ありますが、共有ルームのビリヤードで気が向いた時にいつも遊べたり、市内に行っても一緒に帰って来れたり、便利さでは寮のメリットは大きかったです。また私は大阪公立大学まで片道2時間かけて通っていたので、一度寝坊で8時に目が覚めてしまったのに8時半の授業に間に合ったときは、心から感動しました。



メルボルン自体もとても過ごしやすい場所でした。前述の通り、都市全体が留学生や移民に慣れているようでした。生活でこれといって困ったこともなく（困っても解決が難しくなく）、とにかく過ごしやすかったです。反対にオーストラリア固有の歴史的な文化を感じることは難しかったので、そこは人の好みかなと思います。私は初めての海外長期滞在だったので、色々なハードルが低かったという意味で、メルボルンに来て良かったです。

休暇中や学期終了後は、友人たちと様々なところに旅行に行きました！



## 【最後に】

認定留学は多くの準備を自分でしなければいけません、逆にしっかりと準備をすることで、自分の理想通りの留学プランを立てることが可能だと思いました。また学校のプログラムを使っていないからといって、孤独なわけではありません。実際、私は本当に数え切れないくらい多くの人に助けをもらい、何とか実現することができました。全ての人に感謝しています。

留学で得た全てがとても貴重な思い出になりました。留学は難しく大きな出来事というイメージを持っていましたが、いざ勇気を出して挑戦してみると、酸いも甘いも多くの経験を通して成長できた期間だったと感じています。何より、自分で「こんなことをやってみた！」と言える経験を得られたことが、将来への糧と自信になりました。3ヶ月後には社会に出て働くこともあり、まだまだ不安もありますが、勇気を持って今後も頑張りたいです。そしてこれから留学に挑戦する方々の勇気を、心から応援しています！！